33歳

人間観がわかる

鳥取県倉吉市立西郷小学校　松本勝男

社長一人でその会社が繁栄するかどうかが決まる。
一人の考えで会社は動く。
学校も、しかりである。
学級も、しかりである。学級のリーダーは教師である。教師こそ社長なのである。
その教師のものの考え方一つで、学級の在り方が変わるのである。
だから、最近の、いじめも教師が変わればなくなるのである。
教師の考え方、つまり、その人間観が子供に反映するのであり、人間が人間を教育することのすばらしさなのである。

1　子どもの向山洋一論

向山氏は子どもにとってどのような存在であったか。

・よき友、よき父であった。
・俺は、この世を去るまでに、必ず、向山洋一をぬいてやるのだ。
・教師という道を選んだのもこの男のおかげである。
・おもしろい存在だった。
・守り神なのである。
・この先生こそ、日本いや世界に一人しかいない先生である。
・まあ、私たちのアイドルみたいなことだろう。
・その人物は、よき兄としかいいようのない物になったり、あるときはきびしい教師になったりした。とてもつきあいやすく、私の心を知っていた。
・気品がないような人だった。
・勉強の方もだが、遊びにも熱中してくれるすばらしい人間だ。
・先生を尊敬している。

向山洋一論を子供が書いたものの中から印象的な言葉を抜粋した。

最高級のほめ言葉で向山氏を称賛している。向山氏の存在がいかに偉大なものであったのかを物語っている。

向山氏の学級経営はこうだ。遊びも大事だ。

・とにかくどんな物にでも一つのことに熱中したら、自分が納得するまでとことんやり。やり遂げる。(例外はあるが、)
・勉強だろうが遊びだろうが、あらゆることを知っている。知性と教養が満ちあふれているというのは、こういう男のことではないかとつくづく思う。
・叱るときは、とことん叱る。しかし、その後が今まで出会った先生と、ちがうところである。一度叱ったら、もうそのことは二度と叱らない。
・にこにこと笑顔が絶えない先生だった。
・差別をしないでだれでも平等ということである。
・子どもの気持ちを分かってあげる。
・執念深いのだ。
・何事にも努力と言う言葉を大切にしている。
もう一つはやる事なす事すばやくやるということが、この男の第一条件なのである。力全部を子供達にわけそして、自分は自分の心の通信を始めている。私たちとの心の通信ができる。
「努力、最後まで」
・物事を最後までやりおえないものは、何がなんでも最後までやり通させる。
・遊ぶということに関しては、いろいろと教えてくれた。こんなこともプロの教師といえると思う。ちっとも楽しくない普通の先生は、「勉強、宿題、勉強、宿題、勉強、宿題」と勉強一筋だ。これに遊びということが加わればどんなに楽しいクラスになるだろう。
・一日を24時間と見ている。1440分と見ている。8万6千400秒と見ている。
・ゲーム係、遊び係、マンガ係などは、他の組では少ないと思う。学級を楽しくするためかな。
・よく席替えをしてくれる。
・歌をよく教えてくれる。
・おもしろい話をしてくれた。
・こわい話もしてくれた。

この点から基本的な経営がこのようになる。

1．表文化も大切にするが、裏文化を大切にする。
　　むしろ、裏文化の方が大切なのだという気がする。
2．執念深さ、努力、やり遂げる。
3．子どもの気持ちが分かる。
4．楽しい。

学級経営は人間観のあらわれるところである。
人間の度量が大きければ大きいほど、自由度が増し、子供が活発化する。
とにかく、いろいろと遊びを教えているようだ。
遊びだから、みんなが楽しいし、みんなが興奮するのである。
躍動感が生じるのである。
これが、まずもって重要な点のようである。
学級経営に遊びをどんどん取り入れることが大切なのである。

向山氏の授業の基本を探る。

・わからない生徒が一人でもいたら、その生徒に、わかるまで教える。いや、わからせるのである。
・一つ一つの事を押さえて、正確にやっていくわりには、教科書などは、早く終わってしまう。
・難問的なことを沢山にやる。
・おどろいたのが、他のクラスが授業をしていても百人一首をやるということだ。
・その理由、第一におもしろい話をしてくださるし、パーティーなども、開かせてくれたりしたからである。
・勉強のやり方もわかったし、自分でやろうという気もでてきたし、25メートルをおよげるようになった。
・日記も何とか書いてるし、縄跳びもいろんなやり方ができるようになったし、字も前よりかは、うまくなった。
・時間があるとすぐ、何かを始める。百人一首をやっているが、あれは、授業を退屈させないものの一つだ。
・朝の会や帰りの会などで、ゲームをしたり、のど自慢をしたりしてくれる。
・話が脱線したり、百人一首を教えてくれる。
　　他に、詩や歌、それに遊びもたくさん教えてくれる。しかし、授業に入る

と、一生けんめい説明ややり方などを教えてくれる。
・教科書をかたっぱしからやり、数日で教えてしまう。そして、すぐ難問にとりかかり、私たちを苦しめた。
・私たちの一人一人がわかるような教え方をしてくれ、わからない人は一人も残さない。
・疲れさせないように、退屈させないように、冗談をとばしながらやる授業がよかった。
・基本から順々に教えてくれた。
・あのやまなしの授業や、森の出口などの授業はまさにすごい。あんな討論もできるようになったのも向山洋一という偉大な、人間がプロの教師だからだ。
・それに、一人だけ残こさせて勉強させることもない。
・一つのことを問題としたときすぐに結果を出させようとはしなかった。
・こんなによく見てくれる先生はいままでいなかった。「発表することが少ない。」と1年から4年まで毎回そうだった。なのに5年からはそうではなくなった。
・百人一首、詩などをやったり覚えさせたりする。
・跳び箱は8段が跳べるようになった。

向山氏の授業の基本的なイメージは次のようである。
1．退屈にならないように冗談を飛ばす。
2．授業中、ゲームや百人一首をする。
3．できるまでさせる。
4．授業のスピードが早い。(算数)
5．討論する。結果はすぐ出さない。

子どもが食いつく授業をどんどん展開しているし、子どもができるようになるのである。
このことが、子どもと教師との連帯を促進し、子ども自身が自信を持つことになるのである。
成長感や充実感を子供が持っていることがすごいのである。

向山氏との出会いで子ども自身が受け止めたこと。

・自分の実力に安心というか自信が持てるようになった。ぼくが自分の実力に自信を持ったなんて初めてだった。

・向山先生がたんにんの先生になってから、友だちが増えたこと。自分というものがわかったこと。
・この男がいなかったら、今の我々の進歩はなかった。
・５年の初めに比べれば、だいぶかしこくなったような気がする。
・本当に巡り会えて２年、ぼくは大きく成長した。
・５年と６年で何もかも成長した。
・人間の生き方、正しいことを教わったようである。

成長したということが子ども一人一人に実感として湧いている。このことがすごいのである。
巡り会えてよかったなどは、最高の賛辞である。

子どもがどのように論を展開するか。論文の書き方がわかる。

子どもがよく書いている。
大体が６枚を越えている。
６年生とはいえ、実に、すばらしいことである。
書き方を分析した。文章構成についてである。

上田良樹
浮かぶことをいくつかあげておこう。
第一に
第二に（略）
第十に

野村雅己
名前の由来
よい点、悪い点
まとめ

向山氏との思い出があふれんばかりにあったのだろう。
だから、どんどん書くこともできたのだ。

2　親の向山洋一授業論・教師論

親の論が長い。どうしてこのように長いのか。

小沢（母）

・自学の広場から始まって、日記、跳び箱、パーティー、正義、なさけ、ユーモア、根性、やさしさ、執念、協力、てふてふ、算数難問、野性、百人一首、詩、出口、やまなし

・自分の意見を述べ

・人の考えをよく聞くことを学び、

・一つの作品には、いろいろな見方があることを教わりました。

・勉強することの苦しさと楽しさを学びました。

山浦

・全く重量感あふれる充実した二年でございました。

伊藤

・書くことの不得手な作文、やれどもやれども進級しなかった水泳も先生の暖かい励ましとよき指導。

大山（母）

・中身の濃い2年間で、わが子も目を見張るばかりの成長ぶり、本当に充実した日々でした。他のクラスでは味わえなかったいろいろな裏文化、向山学級ならではの尊い経験を生かし、

通常、保護者からの文章は1行か2行で用件だけである。が、向山学級では全く違い、長文である。

それは、恐らく、教師の魂が保護者をゆり動かし、共鳴した結果である。

先生を尊敬している。

この言葉が何度でたことか。

松本勝男（まつもと　かつお）＝法則化サークル　山陰なしの会